

1300年前の動物戦士?



イラスト・早川和子



ののちゃん 動物みたいな顔をした人たちが何人もいるよ。
 ドノさん (百橋明穂先生) キトラ古墳の石室に描かれていた十二支たちだよ。先頭にいるのは、ネズミとウシとトラだ。
 ののちゃん 今年もキトラ古墳の壁画が奈良県明日香村で見られるって聞いたけど、あの十二支がそうなの?
 ドノさん そうだよ。それに今年は、キトラと同じ時代に描かれた、高松塚古墳や法隆寺の壁画も公開されるんだ。
 ののちゃん よく分かんないけど、すごいことなんだね。
 ドノさん さあ、1300年前の絵を見にいこう。

実物は怖くないよ

ののちゃん 十二支はだれを守ったんだろう。
 ドノさん 絵がはつきり見えるトラが高さ14センチくらい。線が見えにくいネズミとウシも同じくらいみえたんだね。
 ののちゃん ヘーッ。私くらい背丈があると思っていたのに小さいんだ。
 ドノさん 石室も奥行き2・4メートル、高さ1・1メートルと小さいんだ。もっと大きいと思って来た人も多いな。

特別公開は9日〜25日

キトラ古墳壁画「十二支子丑寅」特別公開
 ◇5月9日(金)〜25日(木) 二支 子・丑寅で6月22日(日)まで公開されています。
 (日)、午前9時から午後6時、土曜は午後9時まで(入館は閉館30分前まで)、期間中は無休。
 ◇奈良県明日香村奥山の奈良文化財研究所飛鳥資料館で(館の駐車場はありません)。
 ◇期間限定公開となるキトラ古墳十二支壁画以外にも、中国・唐時代の土製人形や、韓国の古墳を飾った浮彫りの拓本など、東アジア各地で様々な姿に描かれた十二支が、全休展「キトラ古墳壁画十

後援 朝日新聞社

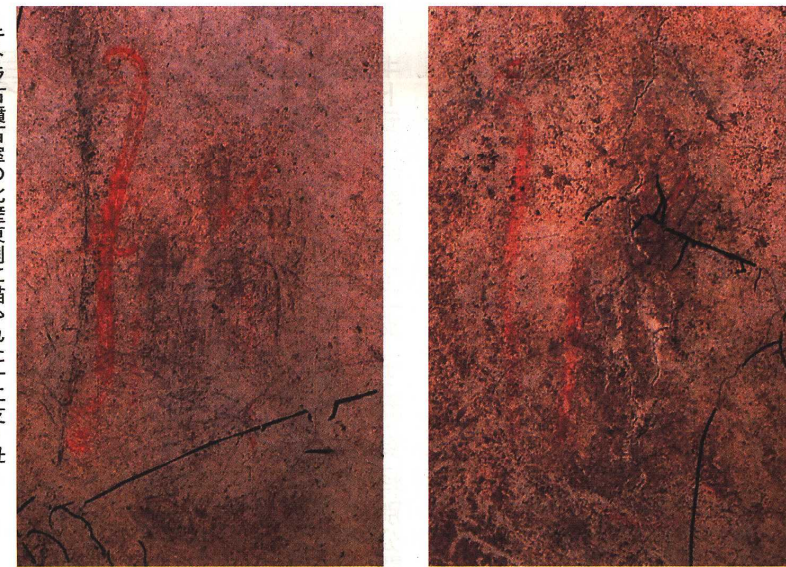


ドノさんこと、百橋明穂さんの横顔
 神戸大学文学部教授。専門は日本と東アジアの美術史。日本の飛鳥〜平安時代の仏教絵画を中心とした美術や、遣隋使、遣唐使を通して日本に影響を与えた中国、シルクロードの美術を研究。高松塚古墳、キトラ古墳の壁画保存対策を検討する文化庁の委員会で委員も務めている。奈良国立文化財研究所、奈良国立博物館の勤務を経て神戸大助教授に。95年から現職。

キトラ古墳石室の東壁北側に描かれた十二支・寅像。01年に十二支の中で最初に発見された。歯をむき出した顔や手にした矛が特徴的だが、現在は表面が乾燥して黒い描線はやや見えにくくなっている。実物はこの写真よりやや小さく、全長16センチほど(文化庁提供)

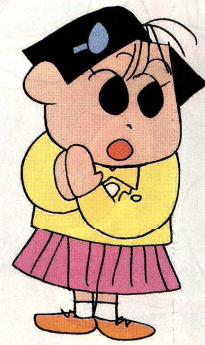


キトラ古墳の北壁中央に描かれた十二支・子像。防御具と見られる赤いかぎ状の武器を持つ(文化庁提供)



キトラ古墳石室の北壁東側に描かれた十二支・丑像。顔ははっきりしないが、手に持つ武器や胴部分の描線はよく残っている(文化庁提供)

十二支って??



ののちゃん 「私はネズミ年生まれとか「僕はトラ年」とかいってよね。あれが十二支でしよう。

ドノさん 「え」とのことだね。昔は、方角や時間の呼び名に十二支が使われていたんだ。

ののちゃん 「いつごろからあるものなの。」

ドノさん 「十二支が生まれたのは中国だ。中国では、昔からたくさん使われてきた。漢(紀元前206〜紀元220年)の時代(3〜6世紀)に、時間や方角を指すものだった十二支に動物があてはめられたらしい。最初にお墓に描かれたのは北斉(550〜577年)の時代で、ウシ、トラ、ウサギと動物の姿で十二支が描かれているよ。

ののちゃん 「でも、この唐の時代の墓から、頭が動物で体が人間の十二支の人形が見つかったよ。このころ、中国の王さま(皇帝)に手紙を渡したり、中国の最新事情を見聞させてもらうために、日本の王さま(天皇)が中国に「遣唐使」といって使節を送ったから、日本にもこんな姿の十二支の絵が入っていたのかもしれないね。」

ののちゃん 「でも、この唐の時代の十二支の人形は武器をもっていないし、おとなしく立っている感じだね。」

ドノさん 「そうなんだよ。武器を持っているのがキトラの十二支の特徴なんだ。私は、仏教の「十二神将」が日本で十二支と合体したんじゃないかと思ってる。」

ののちゃん 「じゅうにしんしょうって何？」

ドノさん 「いろいろな病気を治す「薬師如来」という仏様をお守りするよ。」



中国・山西省の墓に描かれていた最古の十二支像と見られる寅、卯。動物そのままの姿で表現されている(中国・山西省考古研究所提供)



中国・唐時代の墓に収められたものと見られる十二支の土製俑(早稲田大学津八二記念博物館蔵)。獣頭人身だが武器を持たず、おとなしい印象だ(飛鳥資料館)



中国生まれ 違いに注目

飛鳥資料館で開催中の「キトラ古墳壁画十二支子・丑・寅」展では、中国で生まれて様々な形に姿容した十二支の姿を、絵画や工芸品、彫刻など、様々な資料で紹介しています。

今回の特別展の目玉は、なんと5月9日〜25日に特別公開されるキトラ古墳の子・丑・寅の壁画です。東壁の寅像は01年にデジタルカメラによって初めて映し出され、同じ極彩色壁画に飾られた高松塚古墳の「飛鳥美人」とのあまりの違いに注目が集まりました。大きく口を開けたその姿は、怖いと言われ、ユーモラスです。一方、北壁に描かれていた子と丑は、描線が薄れていますが、

唐時代の墓に収められていた十二支の俑(土人形)は、キトラの十二支のように獣頭人身の姿ですが、袖口が大きくくぼつたりした服を着て、武器はもっていません。どこかやさしい印象を受けます。

注目されるのは、明日香村の川原寺裏山遺跡で出土した鳥の頭の塼像(土製の像)。仏教を守護する鳥頭の神・迦楼羅(カラス)とされてきたが、国内最古の十二支像の可能性も指摘されている(飛鳥資料館)



明日香村の川原寺裏山遺跡で出土した鳥の頭の塼像(土製の像)。仏教を守護する鳥頭の神・迦楼羅(カラス)とされてきたが、国内最古の十二支像の可能性も指摘されている(飛鳥資料館)

だれが描いたの



法隆寺金堂の上部の壁に描かれた飛天壁画(重要文化財)。火災の際には取り外されていて焼損を免れた。中国西域の石窟(せつくつ)寺院に描かれた飛天とよく似ている



高松塚古墳の石室西壁に描かれた「飛鳥美人」と呼ばれる女子群像。現在は石室ごと解体され、カビによる汚れの除去などが進められている。奈良県立橿原考古学研究所編「壁画古墳高松塚」から



法隆寺金堂・阿彌陀浄土図の再現壁画。火災で焼損した壁画を、故・安田毅彦氏ら著名な日本画家が協力して再現した

法隆寺の壁画

ののちゃん キトラ古墳の壁画を描いたのはどんな人だったのかな。
ドノさん 今から1400年くらい前、今の韓国や北朝鮮がある朝鮮半島から、日本へ新しい知識や技術を持った人たちがたくさんやってきたんだ。その人たちは日本で暮らすようになり、日本で生まれた子や孫が知識や技術を受け継いだ。キトラの絵描きもそんな人たちの一人だったんじゃないかな。
ののちゃん その人の名前は分かっているの。
ドノさん 800年ごろ、日本で最初の憲法をつくった聖徳太子という人を知ってるかな。彼は朝鮮半島の北の方にあった「高句

高松塚の壁画

麗」という国から来た画家に、「黄文」という名字を名乗るグループをつくらせたんだ。その子孫に黄文本実という人がいる。私は、彼の一族がキトラ壁画にかかわったと思ってるんだ。
ののちゃん へー、どんな人だったのかな。
ドノさん 彼は669年に遣唐使といっしょに中国へ行って、最新の知識を持って帰ってきたらしい。中国では絵もたくさん集めてきたらしいよ。
ののちゃん 今でいうなら留学生だったんだね。
ドノさん そう。それに、中国で見た目新しいものをスケッチして記録する、今のカメラマンのような仕事もしていたんじゃないかな。



高松塚古墳石室の北壁に描かれている玄武。ヘビやカメの頭が描かれていた中央部分が削り取られている。「壁画古墳高松塚」から

キトラの壁画と「きょうだい」かも

ののちゃん キトラ古墳や高松塚古墳の壁画も描いたの。
ドノさん 実は、日本に帰ってきたからの本実が画家として活躍した記録はなく、偉い人のお葬式で監督役をしたことが分かっている。中国で身につけた最新の知識で、儀式のプロデュースやデザインとして活躍したんじゃないかな。だから、キトラ古墳や高松塚古墳の壁画も、彼が持ち帰った絵を元にデザインしたけれど、実際に絵を描いたのは弟子たちだったんじゃないだろうか。
ののちゃん あれ、こちらの仏様の絵はなに?
ドノさん 奈良県斑鳩町にある「法隆寺」という寺のお堂に描かれた壁画だよ。このお寺は聖徳太子が建てたんだけど、670年に火事であってしまい、ちょうど高松塚古墳やキトラ古墳が造られたころに再建されたらしい。だから、この壁画は高松塚やキトラの壁画と同じころの、貴重な絵なんだ。
ののちゃん やっぱ黄文本実がかかわったのかな。
ドノさん 当時の中国で使われていた最新の絵の技術が、法隆寺の壁画にも使われている。本実が日本に帰った後、遣唐使は30年くらい中断しているから、法隆寺の絵も彼がデザインした可能性があるんだ。

国宝 法隆寺金堂展

- ◇6月14日(土)～7月21日(月・祝)、午前9時30分から午後5時、金曜は午後7時まで(入館は閉館の30分前まで)、7月21日を除き月曜休館。
- ◇奈良市登大路町、奈良公園内の奈良国立博物館で。
- ◇法隆寺金堂内陣(旧壁画の飛天図、金堂再現壁画のほか、同寺以外では初公開となる、国宝で日本最古の四天王像(木造)や、重要文化財の阿彌陀三尊像(銅造)、仏像の台座、天蓋など計30点を展示します。
- ◇大人1200円、高校・大学生800円、小・中学生500円。
- ◇問い合わせはハローダイヤル(050・5541・8600)、ホームページ(<http://www.asahi.com/houryuji/>)。
- 主催 奈良国立博物館、法隆寺、朝日新聞社
- 後援 文化庁、奈良県、NHK奈良放送局

国宝高松塚古墳壁画修理作業室の一般公開

(見学希望者が定員を上回り、募集は締め切られています)

- ◇5月31日(土)～6月8日(日)
- ◇奈良県明日香村平田の国営飛鳥歴史公園内、文化庁・国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設で。
- ◇修理中で水平に置かれた壁画を、見学通路からガラス窓越しに見ることが出来ます。見学者は事前に申し込みをした人に限られ、約15人ずつ交代で通路に入り、約10分間見学します。
- 主催 文化庁、奈良文化財研究所、東京文化財研究所、国営飛鳥歴史公園事務所、奈良県教委、明日香村
- ◇申し込みできなかった人は、高松塚古墳の隣の高松塚壁画館で、発見当時の精巧な壁画模写や石室の実物大模型が見学できます。午前9時～午後5時。休館は年末年始のみ。大人250円、高校・大学生130円、小・中学生70円。

宝物に会えるんだね

行ってみよう!



ドノさん 今年キトラ古墳、高松塚古墳、法隆寺の壁画を見ることができなくなった年なんだ。のちゃん すごいね! キトラ古墳の壁画は去年も公開してたよ。ドノさん 壁画が描かれていたし、くいが崩れそうになったので、04年からすべての壁画をほき取る作業が始まった。その壁画を毎年5月、飛鳥資料館で特別に公開しているんだよ。06年は東西南北を守る動物の姿をした神様「四神」のうち西壁の白虎が、07年は北壁の玄武が展示された。残る東壁の青龍と南壁の朱雀はまだ修理中なの

で、今年十二支の子・丑・寅が公開されるんだ。のちゃん 高松塚古墳では、壁画が傷んじゃって大騒ぎになったんじゃないかって。ドノさん そうなんだ。湿度の多い石室の中でカビが大発生し、壁画が汚れてしまった。カビが止まらないので、壁画ごと石室をバラバラにして修理することになったんだ。古墳を壊すことになってしまおうので反対する人も多かったんだけど、特に大事な宝物である「国玉」になっている壁画を守るためには仕方ないというところになっ

た。のちゃん その絵が見られるんだ。ドノさん 壁画は今、古墳の近くの建物で修理されているんだ。見学通路があって、そこから修理中の絵を見ることが出来る。博物館みたいに、近くでよく見るといわけにはいかないみたいだ。見学できる人も、1日500人くらいに限られている。ただ、これからは壁画を見学できるチャンスはあるぞうだ。のちゃん 法隆寺の壁画もきれいだな。ドノさん 実は、今回展示される壁画のほとんどは実物そっくりに再現したものだ。壁画が描かれていた建物や、60年ほど前に火事になって、本物の壁画はひどく傷んでしまった。火事から20年ほどたったころ、日本の有名な画家さんたちが協力して、火事の

前の写真などをもとにして壁画を再現したんだよ。「飛天」と呼ばれる女の人たちの絵だけは、火事の時に外されていて無事で、今回も1点が展示されるよ。のちゃん 奈良の博物館で見られるんだね。ドノさん お寺の建物で修理されるので、普段はその中にある壁画や仏像をたくさんの人に見てもらってほしいんだ。建物の中では見えないところも、博物館ではよく見ると思うよ。のちゃん 1300年も前の絵が残ってるって、すごいことだね。ドノさん 壁画の線を見ていると、絵を描いた人たちの緊張感が伝わってくるよ。鉛筆の絵みたいで、失敗しても消すことはできないんだ。たくさんの子もたちに、彼らのすごい技術を、自分の目で見て実感して欲しいな。

作文コンクールも実施

奈良県明日香村の奈良文化財研究所飛鳥資料館でキトラ古墳壁画「子・丑・寅」が特別公開(5月9~25日)されるのを記念し、子どもたちの作文コンクール「寅のふしぎ みんなで解き明かそう!」を実施します。寅を見て感じたこと、考古学者になったつもりで想像したことなどを文章にしてお寄せ下さい。寅の実物を見に行くことができない人は、朝日新聞紙上の記事などを参考にしてください。自由な発想、奇抜なアイデアも歓迎します。

◇募集期間 5月9日~6月9日(必着)
◇対象 小学生(3~6年)=400字程度、中学生=600字程度
◇賞 7月上旬の審査会(審査委員長=中西進・

奈良県立万葉文化館長)で、キトラ大賞1点を含む優秀賞10点と佳作を決め、同下旬に発表・表彰します。

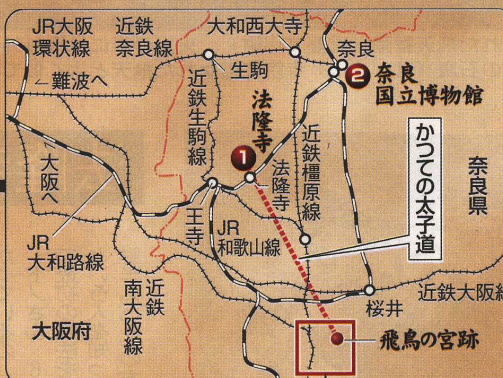
◇あて先 住所、氏名、学校名・学年、電話番号を書き(作文にも)、〒530・8211(住所不要)朝日新聞大阪本社・朝日21関西スクエア「作文コンクール」係(電話06・6201・8450、平日午前10時~午後6時)

主催 奈良文化財研究所、奈良県教育委員会、明日香村、奈良県立万葉文化館、朝日新聞社
後援 文化庁、朝日学生新聞社



1 法隆寺

聖徳太子が創建したとされる法隆寺。火災で焼失し、飛鳥時代の7世紀末ごろに再建された。壁画が描かれている金堂は、写真中央右の建物



7 キトラ古墳

壁画の保護のため、全体にシートがかけられ、保存作業用の「覆い屋」が前面に造られたキトラ古墳

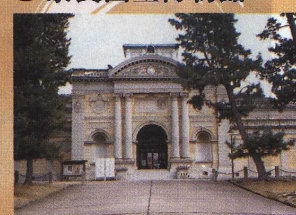


6 高松塚壁画館

高松塚古墳のすぐ隣にある高松塚壁画館。壁画の模写や石室の実物大模型を間近にみる事ができる



2 奈良国立博物館



「国宝法隆寺金堂展」の開かれる奈良国立博物館。展示は東新館で

3 飛鳥資料館



キトラ古墳壁画公開の会場になる奈良県明日香村の飛鳥資料館



期間中の土曜日、前庭では幻想的なろうそくの火がともされる(写真は07年5月)

4 文化庁壁画修理施設



壁画修理施設では、上向きにされて修理中の高松塚古墳壁画を見学通路のガラス越しにみる事ができる=07年6月、代表撮影

5 高松塚古墳



石室が解体され、取り出された高松塚古墳。現在、墳丘を築造当時の円墳に復元する工事が進んでいる

交通案内

● 明日香村へは ●
近鉄橿原神宮前駅へはあへの橋駅から特急で約35分、急行で約40分。京都駅からは特急で約50分、急行で約70分。橿原神宮前駅から飛鳥駅へは約5分

● 明日香村内を巡るには ●
橿原神宮前駅と飛鳥駅を発着点とする周遊バス(赤かめバス)と、キトラ壁画が特別公開される期間中(5月9~25日)に両駅を循環する臨時バスがある。両バスともに1日乗り放題のフリー乗車券は飛鳥資料館入館券付きで大人1000円。橿原神宮前駅と奈良交通桜井案内所(近鉄桜井駅北口)で期間中に発売。臨時バスは飛鳥資料館や万葉文化館、石舞台古墳、高松塚古墳などを回る。内回り、外回りとも平日は約1時間おき、土日は約30分おきになる

● 奈良国立博物館へは ●
近鉄難波駅からは快速急行で32分、京都駅からは特急で33分、急行で41分の近鉄奈良駅下車、徒歩約15分。
JR大阪駅からは快速で48分のJR奈良駅下車、市内循環バス2番で「氷室神社・国立博物館」下車

● 法隆寺へは ●
JR大阪駅から快速で32分、JR奈良駅から10分の法隆寺駅下車。徒歩約20分、または「法隆寺門前」行きバスで同バス下車